

—未来をひらく—

# 竜爪山 九条の会

りゅうそうざん  
きゅうじょうのかい

会報 2024年2月発行 通巻42号

発行／竜爪山九条の会・事務局

〒420-0812 静岡市葵区古庄3-19-34 五井卓方

TEL・FAX 054-264-4918

E-mail ryusouzan9@gmail.com

URL <https://ryusou9.jimdo.com>



## 巻頭言

北野 豊 (古庄)

2024年は元日から「おめでとう」どころではなくなってしまった。輪島に住む高齢の兄は、娘と孫が帰省したため、怒鳴られながら、瓦礫をかき分け高台へ避難した。まかり間違えば、三代そろって亡くなっていた。実際、帰省の多い正月、悲劇に見舞われた家族もいくつかある。2007年の能登半島地震では、高齢の姉の家が大きく損傷し、住めなくなった。今また兄で、高齢になって住み慣れた家が崩壊するのは、考えても辛くなる。

輪島の市街地から高洲山(こうしゅうざん)という、高さ560mほどの奥能登最高峰が間近に見える。日本海に突き出した能登半島にあって、360度見渡すことができる山頂は、大陸を見張る絶好の地点として、レーダー基地がつけられている。私が子どもの頃には米兵もよく見かけた。ソ連と戦争になったら、真っ先にねらわれるだろうと、子どもたちの間でも噂していた。

今でも高洲山にはレーダーがあり、輪島市街の高台に航空自衛隊分屯基地がある。今回の地震で、兄たちの避難所では、三日間、食料の支給なし。隣接する自衛隊基地に避難した人たちは食料ももらえたが、外部からでは水だけで帰された。これは自衛隊員が意地悪したのではなく、「実際、基地内にも備蓄食料がそれほどなかったのだろう」、そう思いたい。

能登半島には志賀原子力発電所がある。2007年に発生した能登半島地震の震源に近

いが、たまたま不正が見つかって運転停止中で、大惨事は免れた。一説によると、原発稼働のため、「能登では大きな地震が起きない」ことを前提に、県でも防災対策を進めており、避難所や備蓄品の整備が不十分であるという。能登では2020年頃から群発地震が発生し、マグニチュード7クラスの地震が遠くない時期に起きると専門家も警鐘を鳴らしていた。それでも、対応は進んでいなかったようだ。

じつは今回の大地震震源の真上は、かつて珠洲(すず)原子力発電所の建設が計画されたところである。賛成・反対、地域を二分する事態が発生し、30年近くの時を経て、建設計画は2003年に凍結された。つくらなくて良かった。これを他所への教訓としたい。

大砲もミサイルももたない「平和空母」。海上から物資と人員を空輸。病院船の機能ももち、無線中継基地の役割も果たす。無人機やドローンだって、立派に災害救援に役立つ。人間の生み出した技術は、戦争のためでなく、人びとのしあわせのために使いたい。そのような思いを強くする年初である。



浅間神社に奉納された大絵馬  
常葉大学造形学部の学生さん制作

# 福島第一原発 海洋放出始まる トリチウム以外の 放射性物質は？ 五井卓（古庄）

2023年8月24日福島第一原発からの放射性物質を含んだ汚染水を処理した水、いわゆる処理水（多核種除去装置[ALPS]によりトリチウム以外の放射線物質を取り除いた汚染水）148万トン（2023年11月18日現在）の海洋放出が始まった。

政府・東電はトリチウムを含む放出水がIAEA（国際原子力機関）の安全基準を大きく下回っていて問題なしとしている。

トリチウムに関しては他の項に譲るとして、ここで気になったのがALPSで取り除いたトリチウム以外の放射線物質はどうなっているのかという疑問だ。政府も東電もまたマスコミもトリチウムのことは取り上げるが、汚染水に本来含まれているその他の放射性物質に関してはほとんど触れていない。

そこで、トリチウム以外の核廃棄物がどうなっているのか調べてみた。

東電によると、デブリ（炉心溶融で融けた燃料）を冷却した水と混ざり放射性物質に汚染された地下水や雨水は、以前より25%減ったとはいえ毎日94トン増え続けていると言う。現在その汚染水の処理はサリー・キュリオンというセシウムやストロンチウムを吸着する装置で前処理し、さらにALPSを通して取り除かれたトリチウム以外の63核種（核廃棄物）は別に貯蔵されている。

その取り除かれた核廃棄物を原子力規制庁は「スラリー・スラッジ」とよび、HICという高性能ポリエチレン容器（直径1.52メートル高さ1.85メートル）に納められている。その数は3000基以上になり、さらに、毎月20基以上増え続けている。その中には積算吸収線量が容器の破損限界5000キログレイ（注1）に達した物が約60基あるという。限界に達し

たHICは、HIC以上に頑丈な容器に移し替えると東電は表明している。しかし、人の被曝の限度は1年1ミリシーベルトにもかかわらず、HICの表面線量は毎時14ミリシーベルト（注2）あり、規制庁は、東電が示した移し替える作業方法では危険きわまりないと承認していない。ようするに、取り除いたトリチウム以外の放射線物質はあまり公にはなっていないが核廃棄物としてたまり続けているということだ。

福島第一原発から出る核廃棄物を減らすためには、水素爆発を起こし崩壊した原子炉建屋に流れ込む地下水を遮断するか、デブリを取り除いてしまえばいいのだが、地下水を遮断するために建設した凍土壁は残念ながら期待するほどの効果がえられず汚染水は増え続けている。しかも凍土壁の耐用年数はわずか7年しかない。またデブリの量はなんと880トン。崩壊した格納容器内の放射線量は、なんと、なんと毎時43000ミリシーベルト。あまりにも線量が高くなすべがなく、12年たった現在も1グラムも取り出すことが出来ないのが現状だ。政府と東電は「30年以内で廃炉を完了する」としているがまさに夢物語だといえる。

原子力は火と同様人類最大の発見の一つだといわれている。しかし残念ながらその安全性が確立される前に軍事兵器などに応用され、安全性は二の次にされてしまった。そのため原子力発電所等から出る核廃棄物の処理は未だに確立されていない。そしておそらくこれからも確立することは難しいだろう。正常に稼働している原子力発電所から出る核廃棄物でさえもあましている現状で、すさまじい放射線量の大量のデブリは全く回収できず、さらに、スラリー・スラッジは増え続けている。

福島原発の事故を受け多くの国が原子力発電に見切りをつけた。にもかかわらず当事国であり、唯一の被爆国で核の恐ろしさを十分に知っている日本が原発の再稼働を進めている。それもなんと耐用年数を過ぎた老朽原発でさえもである。

これ以上傷口を広げないために色々不便な

ことが起きたとしても、人類の未来のためには原子力発電に見切りをつけるべきではないだろうか。

注1：グレイとは放射線により物質が吸収するエネルギー（Gy）

注2：シーベルトとは生体の被曝による生物学的影響の大きさの計量単位（Sv）

グレイ＝シーベルトではない。放射線の種類により、また臓器の種類により生体への影響は異なる

## パレスチナ紛争、その原因と背景は何か。

宮 秀雄（古庄）

歴史の原点に遡ってその背景を知ってこそ正しい判断、認識が持てる。そうでないと「日本の韓国併合は良いこととした」等という歴史修正主義に陥ってしまう。パレスチナは16世紀以降オスマントルコ帝国の一部としてキリスト教徒、イスラム教徒、ユダヤ教徒が平和共存していた。イスラム世界は他宗教に寛容であった。ところがヨーロッパで長い間差別、迫害を受けていたユダヤ教徒はこの地に民族国家建設を目指す「シオニズム」を生む。

ナチスドイツによるアウシュヴィッツ等、ユダヤ民族絶滅をめざす「ホロコースト」もあり第二次大戦後、その移住先の国家建設候補地としてウガンダ、マダガスカル、アルゼンチン、満州等が挙げられた。西洋キリスト教世界の反ユダヤ主義がシオニズムを生んだのだ。

1947年、国連はこの地にアラブとユダヤの2国家を作る「パレスチナ分割決議」を採択。しかしその内容はアラブ系住民に40%、ユダヤ系住民に60%の土地を与える、という極端に不平等なものであった。

1948年、ユダヤ側は人工的に作った宗教国家「イスラエル」建国を一方的に宣言。キリスト教国の欧米が主導権を握る国連はユダヤ民族迫害の負い目「贖罪意識」もあって

見て見ぬふり。また「厄介払い」の意識もあった。パレスチナ人からすれば数百年、否数千年住んでいた居住地を追われ難民となって（民族の大破局＝ナクバ）悲惨な生活を強いられる。

反発したアラブ側は3度の中東戦争で抵抗したが英米に支援されたイスラエルに敗北。以後イスラエルは軍事占領を開始、どころか「入植地」と称する侵略占領地を拡大し続けている。現地農民を追い出して占領入植した「満蒙開拓団」同様だ。

特に悲惨なのは狭い地域「天井のない監獄」とも言われる高い塀に囲まれたガザ地区に押し込められた住民だ。失業率5割以上、明日に希望展望の持てないほどに極限なまでに悲惨、過酷、非人間的な生活がハマスを生んだのだ。欧米のメディアは「ハマスの蛮行（人間は追い詰められたら命がけで抵抗し戦うものだ）」を非難するが半世紀以上のイスラエルの侵攻～占領地拡大の非道を批判せず見逃してきた。まさにダブルスタンダードだ。

アラブ世界に対しては手の汚れていない日本こそ国連憲章と日本国憲法の平和主義の立場、思想から今こそ全力でイスラエルに対して停戦協議の仲介をするべきだ。加えてパレスチナとイスラエル双方に国家としての共存を認める「オスロ合意（1993年）」の実現のために尽力すべきだ。それでこそ全世界から尊敬される。そのような日本になって欲しい。

## 今の税の高さは歴史的

片野 修治（瀬名）

自公政権は2000年に税率と社会保障負担率合わせて国民負担率が27%だったものを2022年度48%に劇的に増加させた。

これは江戸時代中期の徳川吉宗の五公五民とほぼ同じ水準になる。四公六民で続いて来た年貢が幕府の財政立て直しの為に一挙に二割五分増しとなる。加えて税の評価基準を検

見法から定免法に変更。検見法は農民が出来るだけ税負担を少なくする為、役人に賄賂を使い税をまけて貰う。これだと幕府の収入は減少する。定免法だと過去の例の平均を課税する為、税収は安定する反面、大凶作の場合、人口の87パーセントを占める農民は餓死しか無い。そのため極端な間引が発生し、人口が増えない時代になった。

江戸時代の四大飢饉、寛永・享保・天明・天保の飢饉の内、寛永を除く三大飢饉が享保以降に発生している。記録に曰く、「在町浦々道路死人の山の如く目も当てられない風情にて」。この時仙台藩は農民の半数が餓死したと伝えられる一方、お隣の米沢藩は藩主上杉鷹山の備蓄政策が実り、餓死者を一人も出さなかった。

戦国時代が終わり平和が訪れ100年で人口が2.6倍の1200万から3150万人に増加したが、それから150年経った明治2年3.300万と増加はたった150万。中期以降の少子化は、年貢の高さと度重なる飢饉が原因と思われる。

安土桃山時代から現代まで見てみると、豊臣政権はニコイチ、ニ公一民で重い。ただこの時代、全国から湧き出るように金が採掘され秀吉はこれを使い、大規模な土木工事をやり金を回した。次に高いのが享保の五公五民。そして自公政権による国民負担率48%。

そして問題なのは、上に薄く下に厚い課税と集めた税の使い道が不透明。消費税は政権は全額社会保障に充てると言っているが17%しか現実に使われていない。では何に使われているのか。

静岡大学元教授・湖東京至税理士の調査によると、輸出還付金なる仕組みで、海外で販売する商品には消費税は発生しない。仕入れの際支払った消費税分は輸出戻し税として還付される。2021年度、消費税収26兆の内、1兆7千億が輸出大企業上位20社に還付されている。

国民が税と物価高で苦しんでいる時に、為政者は、脱税、違法行為、次の選挙のための事前運動、自分達以外が国政に出られない仕組み作りに励んでいる。この自民党の姿勢を

こたえ：アルミホイール

評する言葉として「今だけ、金だけ、自分だけ」。これ程今の自民党を表す表現が有るだろうか。

江戸時代百姓一揆が3200件あったとか。最早、物言わぬ羊の暮らしは懲り懲りである。

## 竜爪山九条の会 17周年のつどい

とき 2024年4月14日(日)

13時 開場 13:30 開演

ところ (リンク西奈) ホール  
西奈生涯学習センター

講師 馬場利子さん  
憲法のお話

講師 窪田由佳子さん  
ピアノ演奏と語り

## 今年もやります！ 意見広告

5月3日の憲法記念日に、毎年恒例となりました新聞一面を使って、「憲法を活かし守る」意見広告を出します。今年は、朝日新聞に加え、初めて中日新聞にも掲載します。一口、500円で賛同者を募集します。

編集後記

年末、フェイスブックをみていて、出会った投稿です。

スーパーでおばあちゃんが店員さんに聞いた。「おっきな鉄のセロテープはどこ？」3秒ほど考えた店員が案内した。「こちらです。」さて、そこは何の売り場だったでしょうか？こたえは欄外に。「出典」スーパーにもいたコンシュルジュ「おっちゃん、おばちゃんのゆる倶楽部」12月28日より(寺井)